

大島ワークショップ-Twitter&Facebook—入門—

川田 千尋, 酒井 麻里, 村杉 汐音, 豊田 哲也, 加藤 一輝

1. 背景と目的

事前のヒアリング調査によると、気仙沼市内では今回の震災を受けて SNS へのニーズが高まっていることが分かった。しかし、高齢者が携帯電話や PC を利用し、SNS をよく理解して利用するためにはサポートが不可欠である。本研究では、震災・津波を機に Twitter などの SNS に興味を持った人材を集め、ワークショップを行う。ワークショップは 2 日間構成とし、内容は、①Twitter の概要・利用方法の説明、②Twitter を実際に使用してみる、③Facebook の概要・利用方法の説明、④Facebook を実際に使用してみる、⑤アフターケアである。前回行ったワークショップでは、高齢者約 15 名に対し、約 7 名が継続して Twitter を利用している。前回までのワークショップでは被災地の事情もあり、参加者属性が保存できなかったが、今回からは参加者に対するアンケートを実施し、本格的にデータの蓄積を開始する。このデータを分析することで今後気仙沼市を情報都市化するための提案へと繋げる。

2. 対象地

対象地は福島県気仙沼市大島である。大島は宮城県北東部の気仙沼湾内に位置し、航路距離 7.5km の東北最大級の有人離島である。また、島の海岸線は屈曲が著しく、龍舞崎・十八鳴浜・小田の浜など自然が作り出した美しい景観が多くみられ、陸中海岸国立公園と海中公園に指定されている(気仙沼大島観光協会, 2011)。大島も例に漏れず、今回の震災を受けて情報発信の必要性を認識した

地区である。本研究では「大島”絆”新聞」を発行する旅館「黒潮」と共催で、ワークショップを開くに至った。また、ワークショップ中に Facebook 上に「大島”絆”情報センター」というグループを作成し、大島の情報発信拠点となるコミュニティグループ創始をサポートした。

3. 日程と参加人数

唐桑でのワークショップを参考に、ガラパゴス携帯(スマートフォン以外の携帯電話を指す)所持者を想定した「Twitter 講習」を準備したが、旅館側の希望で急きょ PC・スマートフォン所持者に対する「Twitter&Facebook 講習」に変更した。そのため、アフターケアを入れて 5 日間構成となった。

表 1 : 講習会行程表 (日付は 2011 年 8 月のもの)

日付	時間	講習内容	受講者数
8 日	10:00~12:00	Twitter 講習①	5
	19:00~21:00	Twitter 講習②	3
9 日	19:00~21:00	Facebook 講習	4
10 日	19:00~21:00	アフターケア	1
11 日	19:00~21:00	アフターケア	2
12 日	19:00~21:00	アフターケア	3

表 2 : 参加者属性

大島住民	合計 4 名
他大学学生	合計 4 名
講師(慶應院生・学部生)	合計 5 名

表3：日程別に見た受講者属性（日付は2011年8月）

日付	講習内容	受講者属性
8日	Twitter講習①	Aと他大学学部生4人
	Twitter講習②	A, B, C
9日	Facebook講習	A, B, C, D
10日	アフターケア	B
11日	アフターケア	A, B
12日	アフターケア	A, Bと他大学学部生1人

*アルファベットで書かれているのは、受講した大島住民の仮名である。

*他大学の学部生は、それぞれ旅館にインターンで訪れていた東洋大学の学部3年生3名、東北福祉大学の学部2年生1名が参加した。



写真1：8日午前の講習会の様子

4. 成果と今後に向けての反省

前回唐桑で実施したワークショップの参加者は、災害時の情報収集や、家族との連絡手段として使いたいといった、災害時利用を想定して来ている人が多かった。しかし、今回の参加者は自分たちの情報を発信するツールとして興味を抱いて来たという人が多かった。この原因が地域性にあるのか、災害発生時からの時間経過にあるのか、使用している情報媒体（PC・スマートフォン）にあるのかは分からないが、明確な差を感じた。参加した人には基本的な注意事項や長所・短所を説明した上で、ユーザ登録してもらい、twitterとFacebookの基本的な使い方を紹介した。普段メールやイン

ターネットを使用していない人が多かったが、どの参加者もPCを使用した経験があったため、教えるのには時間がかからなかった。また、今回は参加者が少なかったため、講習をマンツーマンで行えたことも大きい。アフターケア期間を設けたこともあってか、講習から1週間経った2011年8月16日までに、2名が継続利用していることが分かった。また、どちらも写真を載せたりして被災地情報を発信し始めており、個人の判断で講習以上の情報発信を試みていることが伺えた。

今回の講習会では、前回の講習で出来なかったアフターケアの重要性を再認識することができた。しかし、スマートフォン利用者に対する講習で講師が戸惑ってしまったり、宿側の希望でPC利用者の参加に限定されてしまったため、前回よりも参加者が少なかったという反省点が上げられた。今後も講習会を行っていく上で、今回の反省点を改善していきたい。また、今回の講習ではFacebookの本名利用や知り合いだけでコミュニティを作ることが中・高年の利用者に支持されることが示唆され、今後の講習内容や、気仙沼にふさわしい情報利用の在り方を考察する必要性が明らかとなった。

*使用した資料・アンケート（白紙）を別資料として添付した。

最後に、今回の講習会にお越し頂いた皆様、東洋大学の学生様、東北福祉大学の学生様、そして講習会開催の機会・会場提供・参加者募集に尽力して下さった旅館「黒潮」のご主人である堺 健様、その奥様に慶應の塾生一同、心よりお礼申し上げます。

参考文献：

気仙沼大島観光協会ホームページ
<http://www.k-macs.ne.jp/~oshimahp/>